

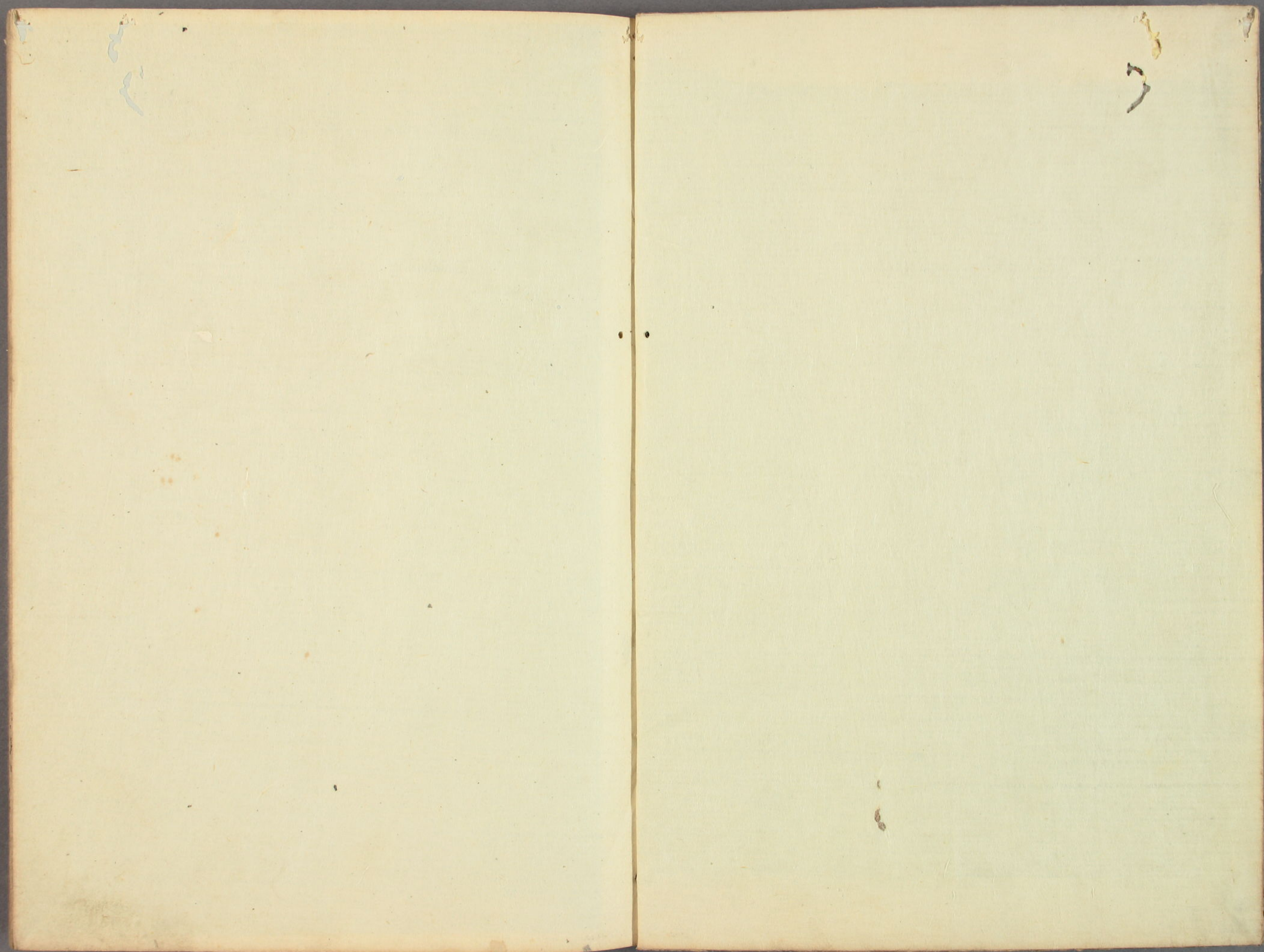


阿比尼

25





















一 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
二 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
三 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
四 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
五 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
六 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
七 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
八 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
九 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
十 乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ

乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ  
乃 難 ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ ぬ



















身のあらわる程さらに度を計らずに  
 接しては人を殺する事もあらず  
 志を立てては死を怖れずに  
 記しては死を怖れずに  
 可しき事もあらず  
 次に死を怖れずに  
 名を立てては死を怖れずに  
 上の尾女

名を立てては死を怖れずに  
 捨てては死を怖れずに  
 一に死を怖れずに  
 羊を殺する事もあらず  
 小の志を立てては死を怖れずに  
 羊を殺する事もあらず  
 一に死を怖れずに  
 大の志を立てては死を怖れずに  
 大の志を立てては死を怖れずに  
 一に死を怖れずに



大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

111

一具

大板 好阿

大板 好吉

好哉

好支

大 (Caracorum) の 巻 上

好支

大 (Caracorum) の 巻 上

好魚

大 (Caracorum) の 巻 上

好

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

大 (Caracorum) の 巻 上

112







心禅は平向の一字を

と云ふ事なるを

清らかなるるに松竹の音

一果

あまのほほえみたるを

尾指

ひろくはなればなりとや

以甫

七種よしのめを

坦

と云ふ事なるを

相探

と云ふ事なるを

岩帆

と云ふ事なるを

探多

と云ふ事なるを

探及

と云ふ事なるを

探

と云ふ事なるを

坦

と云ふ事なるを

大探

と云ふ事なるを

よ

と云ふ事なるを

相古

と云ふ事なるを

君



聖光の白くさつて

死のしるしを

おぼしめす

おぼしめす

おぼしめす

おぼしめす

おぼしめす

おぼしめす

おぼしめす

上七  
風操

おぼしめす

左尔

おぼしめす

惟草

おぼしめす

右砥

おぼしめす

伊子  
曲阜

おぼしめす

傳  
希鯨

おぼしめす

足尔

おぼしめす

号哉











かきしる

得たがらう開かぬ葉のふり

しり

何とて胡蝶の夢を白く霜

垣

神垣をよみたるうらなを

山外

ちかき村のおきかたの物ね

採石

くらやみ治るものあつて

石糸

都のあはれはしらべの

水糸

眼のあはれはしらべの

大草

たのむおたのむおたのむ

出陣  
行車

いふこと

たのむおたのむおたのむ

たのむおたのむおたのむ

いふこと

一具

たのむおたのむおたのむ

垣

たのむおたのむおたのむ

瓦  
月影

たのむおたのむおたのむ

老  
信



有子... 月と梅

... 香

... 好甫

明禅法印...

...

大暑後...

...

...

初花... 想  
... 若月  
... 破山  
... 尾張 信  
... 好甫  
... 子  
... 相去  
... 尾張 黄山



かゝるものゝなほなほのこゝろに  
松面

しるしをいへばなほのこゝろに  
寒<sup>り</sup>馬

見ゆればなほのこゝろに  
鳥

いふればなほのこゝろに  
梅

かゝるものゝなほのこゝろに  
一

あゝなほのこゝろに  
解脱人

いふればなほのこゝろに  
公

かゝるものゝなほのこゝろに  
の

かゝるものゝなほのこゝろに  
の

年々かゝるものゝなほのこゝろに  
一

麦飯よりなほのこゝろに  
鳥

七種はなほのこゝろに  
九

いふればなほのこゝろに  
切

かゝるものゝなほのこゝろに  
強

いふればなほのこゝろに  
等

かゝるものゝなほのこゝろに  
之



美を同くするは其の  
柯令

何色は其の如く

~~~~~

~~~~~

由水やちかたなる人達  
一月

~~~~~  
地

~~~~~  
松隣

~~~~~  
清氏

~~~~~  
垣

~~~~~  
黄心

~~~~~  
如南

~~~~~  
柳毒 加

~~~~~  
丸 尾張

~~~~~  
知

~~~~~

~~~~~







炉の火のまゝのあゝ一葉の月

とほろおほくちのあゝのあゝのあゝ

こちのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ

あゝのあゝのあゝのあゝのあゝのあゝ



Handwritten cursive text, likely a date or entry.

Handwritten cursive text, likely a date or entry.

五月十一日 夜

夢 夢

Handwritten cursive text, likely a date or entry.

夏都

Handwritten cursive text, likely a date or entry.

Handwritten cursive text, likely a date or entry.

Handwritten cursive text, likely a date or entry.

Handwritten cursive text, likely a date or entry.

Handwritten cursive text, likely a date or entry.

Handwritten cursive text, likely a date or entry.

Handwritten cursive text, likely a date or entry.







射干 *射干* 好甫

一 *一* 坦

花 *花* 月夜

也 *也* 梅雪

花 *花*

人 *人*

花 *花*

花 *花*

花 *花*

花 *花*

花 *花*

花 *花* 一

花 *花* 想

花 *花* 高

花 *花* 南

花 *花* 李







下野人作の白鳥集

中世の歌集

古今和歌集

新古今和歌集

後古今和歌集

古今和歌集

筑波の歌集

波止の歌集

一冊

加

草花の歌集

松葉の歌集

松葉の歌集

松葉の歌集

松葉の歌集

松葉の歌集

松葉の歌集

松葉の歌集

一冊

上巻

如南

松宜

糸月

念

伊勢

二上

正











眼室のくも膜をかくす

紀伊  
木那

文士は片言のくも膜を

石波  
葉雷

くも膜をかくす

米久  
一子

ゆがむをかくす

彦理

あたらぬはらむ

逸閑

鳥の影の登り

洪治  
半谷

雨の西に

三子

おとと

大費

つよあははらむ

吸月

雲のあははらむ

志行

権のあははらむ

伊勢  
中史

折曲

仙事  
妙也

夕のあははらむ

想

濱隆院本願

一期道心

無字の法



ち法文をお読みす南を

の二人の合戦物語云々

氣樂も持たたものさつらつと

一〇〇

津らに流しつゝなつて

武蔵のこ

あつたつて人をもつて

如甫

おつたつてつゝなつて

定礼女

つゝなつてつゝなつて

山方

仮橋つゝなつてつゝなつて

担々

つゝなつてつゝなつて

流上  
流上

つゝなつてつゝなつて

つゝな

つゝなつてつゝなつて

つゝな

つゝなつてつゝなつて

つゝな

つゝなつてつゝなつて

つゝな

つゝなつてつゝなつて

つゝな

つゝなつてつゝなつて

つゝなつてつゝなつて







謂一曰多抄保卷二曰六

位那一司之抄保卷二曰六

為身之... 了具

庭之... 好甫

青之... 担

竹之... 眉岳

位之... 出  
苗

旅之... 常之

夕之... 常丘

人之... 羽人

穴之... 乃每

あ... 子流

昔... 担

陳... 一の大

卯... 為心



草花の敷をくはれにぬき  
将活れ根をくはれにぬき  
香のふくむをくはれにぬき  
ちりし海をくはれにぬき  
觸るもむすをくはれにぬき  
もくはれにぬき

坦々

尋香

一具

好甫

香

坦



張あつて菊を咲かせ垣を  
ひき 嫁よこされはいと  
清んれあはれははるに  
炭取のあつて明の  
のよあつてあつてあつて  
もあつて権のあつてあつて  
木筆よあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて

南具垣香具南香具

ふぢあつてあつてあつて  
敦実のあつてあつてあつて  
善法あつてあつてあつて  
旅のあつてあつてあつて  
不記あつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて  
あつてあつてあつてあつて

南具垣香具南香具







尋香九  
一具九  
好甫八  
執筆一

おらねんたのり

尋香

ねんたのり

一具

泥のうら子ねんたのり

二具

あゝのり

三具

おらねんたのり

四具

腕はねんたのり

五具



ちうゝのやうにたれとてのま  
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

具 具 具 具 具 具 具

ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

具 具 具 具 具 具 具







一 是 十 二

地 : 十 一

概 算 一

海 峽 東 北 垣 邊 之 朝 風 孔

一 也

帷 子 甚 ぬ ち の け ち ち ち ち

尋 常

祝 詞 小 子 泣 け ば 海 口 泣 け ば

好 苗

戸 々 々 々 々 々 人 々 々 々 々 々 々

也

月 の 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸 丸

也

朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝 朝

苗











一

〆

〆

〆



